

令和6年度

学校自己評価報告

学 校 運 営 計 画		
学校運営方針	教育目標『常識と責任を持ち、社会に信頼される人物の育成』を達成するため、生徒に「学ぶ」ことの大切さを理解させ、社会で自立し、よりよく生きる基礎力を身に付けさせるとともに、保護者や地域の期待と信頼に応える学校をめざす。	
三つの方針(スクール・ポリシー)		
育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	(1) 自ら考え、判断し、行動する力、生涯をとおして主体的に学び続ける人材を育成します。 (2) 他者や周囲を尊重し、多様な人々と協調して社会に貢献する力を持つ人材を育成します。 (3) 豊かな感性を備え、社会の一員としてのルールやマナーを大切にする人材を育成します。	
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	(1) 生涯を通じて学ぶために、基礎的・基本的な知識・技能の習得などの確かな学力の育成に重点をおき、全ての教科・科目において基礎学力の確実な定着を図ります。 (2) 地域と連携しながら、多様な職業や進路について学び体験する機会を設定し、主体的に進路目標を設定して、その実現に向けて粘り強く取り組む活動を推進します。 (3) 計画的なキャリア教育により、生徒一人ひとりが自己の在り方、生き方を考える機会を提供し、望ましい勤労観や職業観と積極的に進路選択する能力を育成します。	
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	○中学校までの学びを振り返りながら、高校入学後も活き活きと学校生活を送ろうとする意思を持つ次のような生徒を積極的に受け入れます。 (1) 時間をかけて、誠実な態度で真剣に授業に取り組むことができる生徒 (2) 自分の将来を思い描き、その目標に向かって頑張ることができる生徒 (3) 落ち着いた環境で、他者と関わり合いながら、学習を継続できる生徒	
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標
生徒一人ひとりに対して、担任を中心に各分掌と密接な連携をとりながら組織的な教育活動を実施した。また、学校設定科目や総合的な探究の時間を中核として、PTA、後援会、阿賀野経営者同友会等のご協力やご支援をいただきながら、地域と連携した職業教育を推進した。今後は、本校の特色ある教育活動を積極的に外部に発信しながら、生徒に達成感や充実感を持たせ、自己肯定感につなげたい。さらに、多様な生徒に対して組織的な指導をより充実させていくとともに、早期に生徒一人ひとりに卒業後の進路目標を持たせ、その達成に向けて教職員の実践的指導力を高める必要がある。	・日々の授業を充実させ、進路実現のための基礎学力の定着を図る。	①「わかる」授業の展開と改善 ②成績不振者を出さない授業 ③自学自習の習慣化
	・社会性育成のための諸活動を充実させる。	①行事・生徒会活動・部活動をとおした生徒の人格形成 ②人権教育、同和教育の推進
	・生徒の実態に応じた支援を充実させ、健全な心身の育成に努める。	①生徒相談体制の充実 ②個別支援・個別指導の充実 ③基本的な生活習慣の確立
	・学校の評価を基に、教育活動全般の改善に努める。	①各種アンケートを基に現状分析 ②改善に向けての計画的な取り組み
	・保護者や地域と連携を深める。	①PTA 行事の活性化と参加率の向上 ②教育活動の発信と広報の充実 ③中学校や関係機関との連携強化

重点目標		具体的目標	具体的方策	評価		
日々の授業を充実させ進路実現のための基礎学力の定着を図る	国語科	・基礎学力の向上 ・分かりやすく、生徒が興味関心を示す授業	・生徒が苦手とする項目は確認テストを行い、また単元ごとに漢字プリントを作成し、基礎的な学力を定着させる。	A	A	
			・必要に応じて補習を行い、基礎学力の定着を図る。	B		
			・古典については、古典文法や漢文の訓点に偏ることなく、生徒が興味関心を持てるような授業を展開する。	A		
			・漢字練習を行い、漢字や語句の知識を増やす。また、課題テスト等で定着を図る。	A		
	地歴公民科	・学習習慣の定着 ・基礎学力の向上	・家庭学習の重要性を呼びかけ、学習方法を具体的に指導する。	A	B	B
			・必要に応じて家庭学習の課題を提供する。 ・指導内容を検討し、分かりやすい授業をするよう心掛ける。 ・補習や個別指導を実施し、学力の向上を図る。	B		
	数学科	・基礎学力の向上	・週末課題を課し、家庭学習の定着を図る。	C	B	
			・長期休業中の課題を課し、重く評価する。	A		
			・指導内容を精選し、分かりやすい授業を心掛け、基礎学力の向上を目指す。	A		
	理科	・基礎学力の向上 ・実験、実習の充実 ・環境問題への意識の向上	・基礎的な内容がわかるような授業展開を工夫し、進路に関わる生徒に対しては補習を含めて内容の充実を図る。	A	A	
			・必要に応じて実験・実習を有効に行い、興味・関心を深める。	A		
			・環境問題に対する興味を喚起するような授業を展開する。	A		
	保健体育科	・基礎体力の向上 ・生涯を通じて健康や体力の保持増進できる能力の育成	・新体力テストの結果を踏まえ基礎体力の向上を目指し、各学期または各種目に応じてトレーニング内容を工夫し年間を通して実践する。	A	B	
			・生涯を通じて運動に親しむ意識を育むことを狙いとし、各種目において、わかりやすく指導し上達する喜びを体験できる授業を目指す。	A		
			・科目保健では、常に身近な健康問題と絡めた内容で興味・関心を持たせ、10代からの健康づくりについて必要性を理解させる。	B		
	芸術科	・演奏や作品をとおして表現する喜びを得させる	・観る、聴くなどの基本的態度を身につけさせる。	A	A	
			・様々なアプローチを体験するなかで、表現の多様性に気づかせる。	A		
			・発表の機会を設け、周りとの関係のなかで自己の演奏や作品を客観的に理解させる。	A		
			・個に応じた指導を行い、表現の意欲を高めさせ、持続させる。	B		
	英語科	・基礎学力の向上 ・コミュニケーション能力の育成	・補助プリントなどの教材を工夫し、単語テストなどの小テストを定期的に行うことにより、基礎学力の定着を図る。	A	A	
			・個に応じたきめ細かな指導を実施する。	A		
			・英語検定の取得を促し、授業にとどまらない開かれた英語学習に臨む姿勢を伸長する。	A		
			・ALTとのTTを継続的に実施し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。	B		
	家庭科	・衣、食、住、経済、保育、福祉の各分野において、基礎的な知識と基本的技術を身につけさせる	・基本的生活習慣の確立と自立へ向けた指導を行う。生徒の能力にかかわらず全ての生徒に対し授業への理解が促せるよう、UDLを取り入れる。	B	B	
			・調べ学習やワークシートの活用等、体験的な授業を行う。	B		
			・アクティブラーニングを取り入れ、自己表現力・伝達力・コミュニケーション力・主体的な聞き手としての力などを育てる。			

情報科	・情報技術の習得 ・情報モラルの育成	・アプリケーションソフトを活用し、基礎的な知識と技術を習得させる。	A	A
		・実習を通して主体的・実践的な態度を育てる。	A	
		・個人情報や知的財産の保護と活用、情報モラルの育成を図る。	B	
商業科	・ビジネスのしくみを理解し、基礎的、基本的な知識の理解と技能を習得する	・実習や小テストを実施し、基礎基本の定着を図る。	A	A
		・各検定試験の合格率を向上させる。	B	
		・地域産業を担うために必要なビジネスの知識および態度を身に付け、社会の変化に対応できる人材を育てる。	A	
進路指導部	・進路希望達成率100%を目指す	・進路ガイダンスなどを通じて、生徒・保護者に進路実現に向けての準備と対策をたてることを促す。	A	A
		・進路意識啓発のため「総合的な探究の時間」などを活用し、適性検査や文章書き方指導などを実施する。	A	
		・進路選択のために企業訪問や進路体験講話を実施する。	B	
	〈就職〉 ・適性に応じた職種を選択できるようにする	・校内においては担任との連携を、校外においてはハローワーク等との連携を深める。	A	A
		・面接練習や履歴書指導などの指導を十分に行う。	A	
	〈進学〉 ・将来を見据えた学校を選択できるようにする	・校内ガイダンスを充実させる。	A	B
		・様々な入試に対応可能な指導を実施する。	B	
		・個別指導を基本とする面接指導を充実させる。	B	
		・オープンキャンパスに積極的に参加するよう促す。	A	
1学年	・基礎学力の定着と基本的な生活習慣の確立を目指す。 ・生徒一人ひとりが安心して学習できるクラス環境づくりを進め、生徒の自己肯定感を高め、いじめの防止を図る。 ・自己を知り、自分の進むべき進路を自ら開拓していこうとする力を育てる。	・学年としての服装・頭髪指導を通して、基本的な生活習慣の定着を目指す。	A	A
		・日々の授業を大切にするようきめ細かく指導する。	A	
		・学校・学年の行事を通して自主性や協調性の涵養に努める。	B	
		・生徒ひとりひとりの個性と力に相応した進路指導を行う。指導に当たっては、保護者・生徒双方に現実を正確に把握してもらえよう指導する。	B	
2学年	・進路実現に向けた取り組みを促す ・学習における基礎基本の確立を目指す	・進路ガイダンスで多くの学校を招き、進路意識の向上を図るとともに、個人面談等で進路実現に向けた準備方法を具体的に指導する。	A	B
		・進路に関する副教材を活用し、進路実現への準備として資質向上を目指す。		
		・検定試験や模擬試験の受験を奨励し、「高校生活で努力したこと」への面接材料となることを促し、個々の魅力づくりに励むよう指導する。	B	
		・基礎学力の向上および学習への基礎基本（予習・復習）が定着するよう促し、生徒自ら学習環境を整える意識改革を目指す。	B	

	3 学 年	・希望の進路実現に向けた取り組みを早い段階で指導する ・主体的に学習に取り組む、自己の学力向上を目指す心を育てる	・進学希望者へは、早い時期から数校のオープンキャンパスに参加させ入試方法を5月下旬～6月上旬には決定させる。 ・就職希望者へは、企業研究および卒業生の採用試験報告書をもとに採用試験内容を把握させ進路実現に向けて指導を綿密に行う。	B	B
			・将来を見据えて、「検定合格への学力向上」や「主体的に努力できる能力」を高められる積極的な授業参加を目指して、学年だよりや面談、LHR などを通して啓発指導をする。	A	A
	教 務 部	・生徒の学習活動のための環境づくり	・授業時数を確保し、生徒の基礎学力向上につとめる。 ・教室の学習環境を整備し、落ち着いて授業に取り組める環境をつくる。	A B	B
社会性育成のための諸活動を充実させる	1 学 年	・望ましい人間関係を確立する	・学年行事やHR活動を通じて、コミュニケーション能力の育成を図る。	A	A
	2 学 年	・インターンシップを通して社会性を磨く	・インターンシップの事前指導、実習、事後指導をととして、社会人としての責任や厳しさを学び、上下関係や横の繋がりにおける人間関係づくりに向けた態度や言動の資質向上を図る。	A	A
		・学校行事を活用し適切な人間関係の確立を目指す	・修学旅行や学年行事をととして生徒のリーダーシップ性を育て、生徒が自分たちの力で集団作りができるよう指導する。	A	
			・望ましい人間関係を育成するとともに、集団の一員としての適切な行動を実践させる。	A	
	3 学 年	・学校行事やLHRを活用し、適切な人間関係の確立を目指す	・学校行事やLHR などを通じ、リーダー性・協調性・公平な態度などそれぞれの個性を認め、他者を尊重した人間関係を構築できる能力を育成する。また、自己の個性も伸ばせるよう指導する。	A	A
	生 徒 指 導 部	・部活動の活性化	・生徒の活動の場となることを目指し、部活の再編をする。	A	A
		・生徒会活動を通して、社会性を身に着ける。	・生徒会が主体となって、あいさつ運動などを行い、他学年とのコミュニケーションをとり、集団生活を円滑に過ごせる社会性を身に着ける。	A	A
			・生徒会が主体となり、各委員会を有効に機能させる。生徒自ら企画運営できる力を身に着ける。	A	
	人男 権女 教平 育等 、教 同育 和推 教進 育委 ・員 会	・健全な人権意識の涵養をはかる ・差別を許さない心を育てる	・全校生徒対象の人権教育講演会を開催する。 ・全学年で人権・同和教育授業を実施する。 ・就職希望者を対象に公正採用選考実現のための取り組みについて学習を深める。	A	A
		・教職員の人権意識を高め、すべての教育活動を見直す	・校内研修会を開催し、人権教育・同和教育に関する人権意識を向上させるとともに、教育者としての資質の向上を図る。 ・各種同和教育研修会等に積極的に参加し、職員への報告を行うとともに、その成果を生徒の指導・啓発に生かす。	B	

生徒の実態に応じた支援を充実させ、健全な心身の育成に努める	生徒指導部	・生徒の基本的生活習慣の確立と自立心を培う	・状況を踏まえながら、朝の立ち番指導（校門、生徒玄関など）を適宜行う。	A	A	B
		・問題を抱えた生徒の早期発見と適切な指導に努める	・生徒に対して指導の主旨を明確に提示し、生徒達の自主的な規範意識の啓発に努める。	A		
		・喫煙、盗難など問題行動防止に努める	・定期的に全校服装頭髪検査を実施し、継続的に指導を行う。	A		
		・交通事故や違反の未然防止と再発防止に努める	・定期的に学校生活アンケート等を行い、いじめ等の現状把握と防止教育に取り組む。	A		
		・SNSによるトラブル(加害・被害)の防止	・生徒の遅刻防止や授業規律への意識を高め、規律正しい学校生活を送るよう努める。	A		
			・薬物乱用防止講演会を催し、生徒へ周知を図るとともに問題の未然防止に努める。	A		
			・交通講話やバイク実技指導を行い、交通社会のマナーや責任感の向上に努め、交通違反事故0件を目指す。	A		
			・SNS教育プログラム等を実施し、スマートフォン等をルールを守って使える健全な心、安全に利用するための危機管理意識を育成し、インターネットの適正利用について指導する。	A		
	1学年	・基本的生活習慣等の定着を目指す	・遅刻、欠席、服装・頭髪の乱れについては改善に向けて根気強く指導し、保護者と共通理解の上で連携を図っていく。	A	A	
	2学年	・基本的生活習慣等の定着を目指す	・遅刻、欠席させないために保護者と連携を図っていく。		B	B
			・学校生活全般において自ら挨拶できる人物を目指して指導する。		B	
			・服装、頭髪指導などを実施し規範意識の定着を目指し、けじめある学校生活を過ごさせる。		B	
	3学年	・基本的生活習慣を継続できる人間形成を目指す	・無用な遅刻、欠席をさせないために保護者との連携を密に図る。 ・自ら挨拶できる積極性を持ち、正しい服装（含頭髪等）で生活でき、「けじめ」ある学校生活を過ごすよう指導する。		B	B
	保体	・集団行動の徹底	・年間をととして授業時の集団行動（時間、服装、挨拶、安全など）を徹底させ、規律正しい態度を身につけさせる。		A	A
	特別支援教育推進委員会	・生徒の特性を理解する	・必要に応じて職員研修を実施し、最新の生徒理解のための知見を広める。		A	A
			・校内組織を見直し、校内での情報が円滑に行われる体制を構築する。		B	
			・生徒の特性に応じて外部機関との連携をする。			
		・特別な支援を要する生徒に対する支援方法を検討する	・特別支援コーディネーターが中心となり、ケース会議を行うなどして支援を要する生徒への支援を検討する。		A	A
			・スクールカウンセラーの協力を仰ぎ、不登校生徒・家庭への適切な支援を行う。			
			・必要に応じて、専門医療機関との連携をする。			
			・特別な支援が必要な生徒に対して個別の指導計画・個別の教育支援計画を立案する。			

学校の評価を基に、教育活動全体の改善に努める	渉外委員会	・正しい現状把握と分析	・アンケート調査の実施や学校評議員会・地域の声を聞く会を開催し、生徒、保護者、地域の方々からの評価で現状を把握する。	A	A	B
			・学校自己評価の結果を分析し、課題を全職員で共有する。	B		
		・改善に向けての計画的な取り組み	・年度初め、中間報告、最終報告の年3回、各分掌等で評価と反省をし課題を全職員で共有し「よりよい学校づくり」を目指す。	B	B	
			・教員評価では、自己の目標を設定し積極的な研修などで資質能力の向上を図るとともに学校全体の教育力を高める。	B		
	生徒指導部	・健康な生活の推進と快適な学習環境づくりに努める	・健康について関心を持たせるため、講演会を開催したり、保健だよりを随時発行する。	A	A	
			・保健室への来室者や、心身の健康に悩みを抱える生徒に対し、担任と連携し、問題点を早期に発見し対応する。	A		
			・毎日の清掃やゴミの分別の徹底を図る。	A	A	
			・清掃用具の整備を行う。	A		
保護者や地域と連携を深める	教務部	・地域に開かれた学校づくり	・広報活動をととして、学校の活動を積極的にPRする。	B	B	B
			・学校案内、学校説明会を充実させ、地域や中学生に学校をよく知ってもらう。	A		
	1学年	・学校生活の状況を積極的に伝える	・学年だよりを活用し、学年の状況や指導方針などを積極的に伝える。	A	A	
	2学年	・学校生活の状況を積極的に伝える	・家庭に対して学年通信などを活用し、学年の状況や指導方針などを積極的に伝えていく。 ・生徒の成長や自己肯定感の上昇は具体的な事例をもとに伝達する。	B	B	
	3学年	・学校生活の状況を積極的に開示する	・学年だよりを通じ、学年の指導方針や現状を明確に伝え理解と協力を求める。	A	A	
	生徒指導部	・地域との連携を深める	・地域の行事に参加して地域との連携を深める。	B	B	
成果	・各教科できめ細やかな個別指導を実施し、進路実現のための基礎学力の定着を図った。 ・学校行事や総合的な探究の時間における活動を工夫し、生徒の自己肯定感を高め、協調性や社会性を育みながら全人的な成長を促した。 ・進路実現に向けて3年間の計画的かつ継続的な取組を実施し、希望する将来像や職業観を再確認しながら、早期の希望進路の決定や実現に結びつけた。 ・社会に開かれた学校づくりのために、地域の声を聞く会、PTA 総会などの機会を活用し、外部への積極的な情報発信に取り組むとともに、地域や保護者との連携をととして、社会に貢献できる生徒の育成を進めた。				総合評価	B